

居心地のよい快適な図書館の提案

C1240196 五十嵐楓

これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する

これまで以上に利用したくなるような図書館にはどのようなものがあるのだろうか？考えるために私は、図書館を利用する人にはどのような人がいるのか調査を行った。まず初めに、よく図書館を利用するという友人二人に現在どのように図書館を利用するかのインタビューを行った。一人目の友人は、よく授業の合間に図書館を利用するとのことだった。カフェテリアに比べて比較的音が少なく、授業の課題や読書に集中しやすいと言った点から利用していることだった。また、充電スペースがあり使い勝手がよいというのも理由であった。しかし、気温の高い日は図書館内が暑く居心地が悪いと話していた。次に二人目の友人は、本を借りる際に利用しているということだった。授業で必要な本や借りてくるように指示されたときに利用しているようだった。

次に観察と体験を行った、観察をしているとやはり多くの人が授業の空き時間に利用しているようだった。読書や勉強をしている姿が多く見られたが、ただ時間を潰しているだけの人も見られた。体験では、自分で図書館の1階から3階までを実際に利用した。1階と2階には、机にしきりとライトがついている机が数個あり、あまり人の目を着せず自分のしたいことに集中できる環境であると感じた。しかし、壁側以外だと利用している人が少なく、人が歩いている姿などが少し気になった。3階は日光が差し込み気分によっては利用してみたくなる印象だった。また、以前授業の課題を行った際に複数人でグループ学習室を利用したときは個室のためとても集中して作業を行うことができた。

これらのことから図書館を利用する人には、3つのタイプがある。1つ目は、本を借りるのを目的として図書館を利用するひと。2つ目は、授業がないときにただ図書館で時間を潰す人。3つ目は、課題などの学習目的で利用している人だ。このタイプの人は、長時間利用する人や、集中して効率よく課題などに取り組みたい人の可能性が高いため、顕在的ニーズと潜在的ニーズを持ち合わせている可能性が高いと言えるだろう。顕在的ニーズとしては、暑い日には冷房などの空調機器がほしいやどこの位置でも人を気にせず集中したいなどが考えられる。潜在的ニーズとしては、長時間集中できる環境で快適に課題などの作業を行いたいという思いが考えられる。このことから課題は、長時間集中して快適に課題や作業を続けるにはどうしたらよいかとした。

コンセプトとプロダクト。コンセプト、暑さや人の気配を気にせず学習に取り組みたい

人向けに快適で集中できる図書館利用。プロダクト、図書館のどこにいても快適に過ごせる空調設備を設置する。視界を遮る範囲を増やせる折りたたみ式の仕切りにもなる拡張机。グループ学習室から出なくても、手軽に体を休めるソファの設置。長時間座っても腰が痛くならないクッションまたは椅子を置く。

期待される効果として、環境を快適にすることによって長時間集中することや気軽に利用することが可能になり図書館が利用しやすい場所になることが考えられる。